

**2026(令和8)年度 第1回 サロン・ド・大学コンソーシアム大阪
アカデミック・アドバイジングの実践—個人支援から組織的アプローチへ—
参加者アンケート集計結果**

回答者数29名/参加者数31名 回収率93.5%

1.回答者について

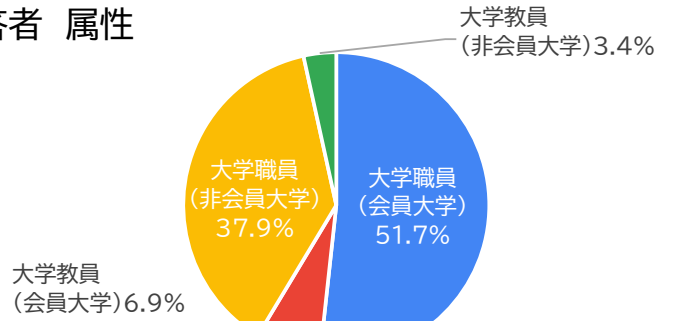
(1)属性

単位:名

大学職員(会員大学)	15
大学教員(会員大学)	2
大学職員(非会員大学)	11
大学教員(非会員大学)	1

29

回答者 属性



2.本サロン全般について

(1)本サロンを知ったきっかけ(複数回答可)

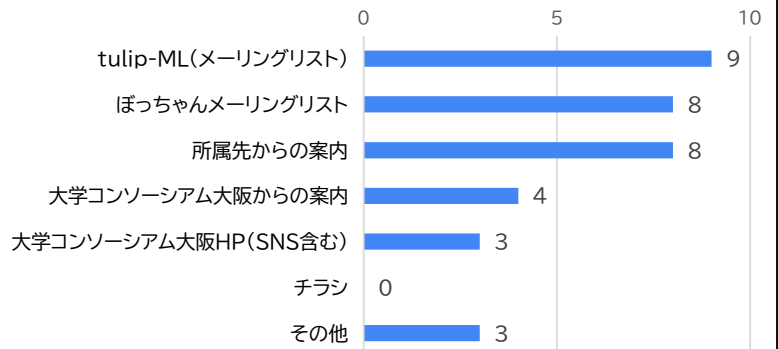
単位:件

大学コンソーシアム大阪HP(SNS含む)	3
大学コンソーシアム大阪からの案内	4
チラシ	0
所属先からの案内	8
tulip-ML(メーリングリスト)	9
ぽっちゃんメーリングリスト	8
その他	3

その他:学内関係者からの案内、知人からの紹介

本サロンを知ったきっかけ

単位:件



(2)参加理由(複数回答可)

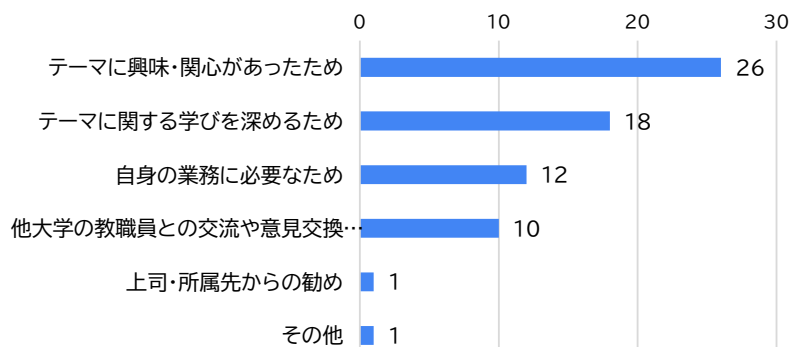
単位:件

テーマに興味・関心があったため	26
テーマに関する学びを深めるため	18
自身の業務に必要なため	12
他大学の教職員との交流や意見交換のため	10
上司・所属先からの勧め	1
その他	1

その他:登壇講師の専門的知見の聴講希望

参加理由

単位:件



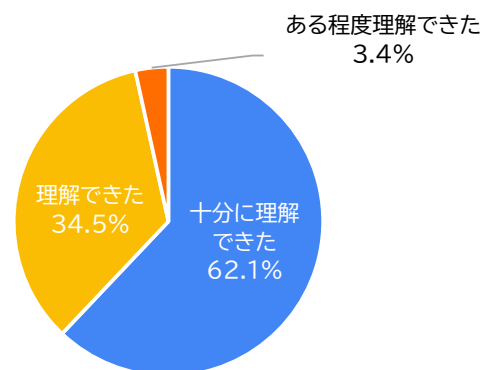
(3) 内容の理解度

単位: 名

十分に理解できた	18
理解できた	10
ある程度理解できた	1

29

内容の理解度

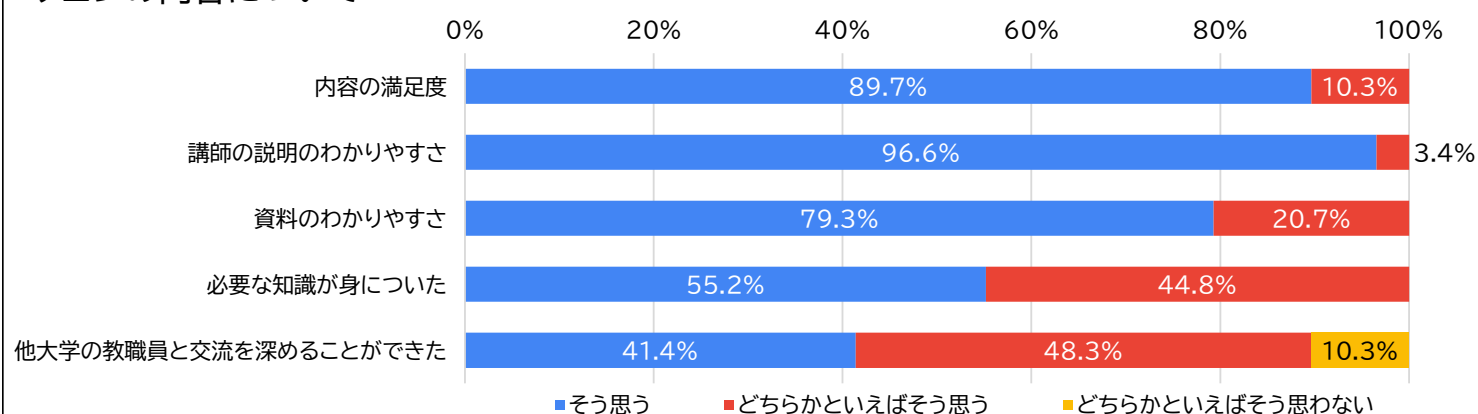


(4) サロンの内容について

単位: 名

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
内容について満足しているか	26	3	0	0
講師の説明はわかりやすかったか	28	1	0	0
提示された資料はわかりやすかったか	23	6	0	0
必要な知識を身につけることができたか	16	13	0	0
他大学の教職員と交流を深めることができたか	12	14	3	0

サロンの内容について



(5) 開催時期・時間について

単位: 名

適切だった	27
他の曜日・時間帯が望ましい	2

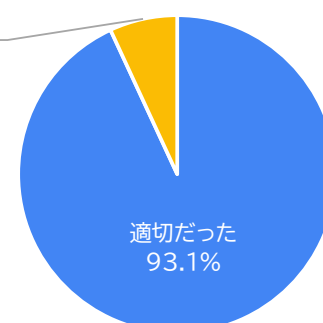
29

<希望する具体的な開催時期>

- ・オンラインセミナーや早い時間帯での開催。
- ・開始時間帯は15時頃が望ましい。
- ・他大学との意見交換の時間確保のため、開催時間を30分延長してほしい。

開催時期

他の曜日・時間帯が望ましい 6.9%



(6)本サロンに参加して良かったと思われる点

・他大学の教職員と交流し、情報交換の機会を持て、有意義だった。(他5件)
・専門的な知識や学生への対応に不安があったが、アプローチ方法や会話の手順等の基礎を教えていただけて勉強になった。(他4件)
・アカデミックアドバイジングの定義や役割を確認できた。(他3件)
・少人数での事例共有の時間を通じ、同じ悩みの共有や、新しい視点との出会いの機会となり、貴重な経験となった。(他1件)
・清水先生の講演を大阪で受講できたことは、研修費を削減している本学にとって貴重な機会だった。
・若い世代の大学職員の熱心な聴講姿勢を見て刺激を受けた。(弊学の職員もそうなってほしい。)

(7)本サロンをより良いものとするための提案

・情報交換会の時間が30分と短時間のため、可能であれば、別途食事代付きの情報交換会(2時間程度)があれば、嬉しい。(他1件)
・もう少し時間を長く設定してもよいかと思った。(他1件)
・マイクや音響設備の刷新。(他1件)

(8)今後、本サロンで取り上げてほしいテーマ

・アカデミック・アドバイザーの養成講座等。(他1件)
・高等教育制度の歴史を学ぶ。(ご要望に応じて、講師を務めたい。)
・SD研修を初めて実践していく上での工夫。
・中堅職員の課内での目標設定やモチベーション維持についての講演。
・職員自主勉強会をどう始め運営するか。
・IRIに関する取り組み。
・認証評価関連。

(9)上記以外の感想や意見

・体制・仕組みを作るのは難しくはあるが、「アカデミックアドバイジング」を理解した上で業務にあたることは可能かと思った。そのような考え方や学生への接し方を教職員で共有する機会(研修等)を設けたい。
・全体を通して、大変よく準備・運営がなされており良かった。金曜日の夕方という時間設定も適切だと思う。
・大変充実していたが、もっと交流の時間がほしかった。名簿をいただけたのは大変ありがたかった。
・様々な意見交換ができ、とても有意義だった。
・地方の小規模大学の職員にとって、移動距離の少ない大阪で他大学との情報交換の場や知りたかった研修の実施に本当に感謝している。

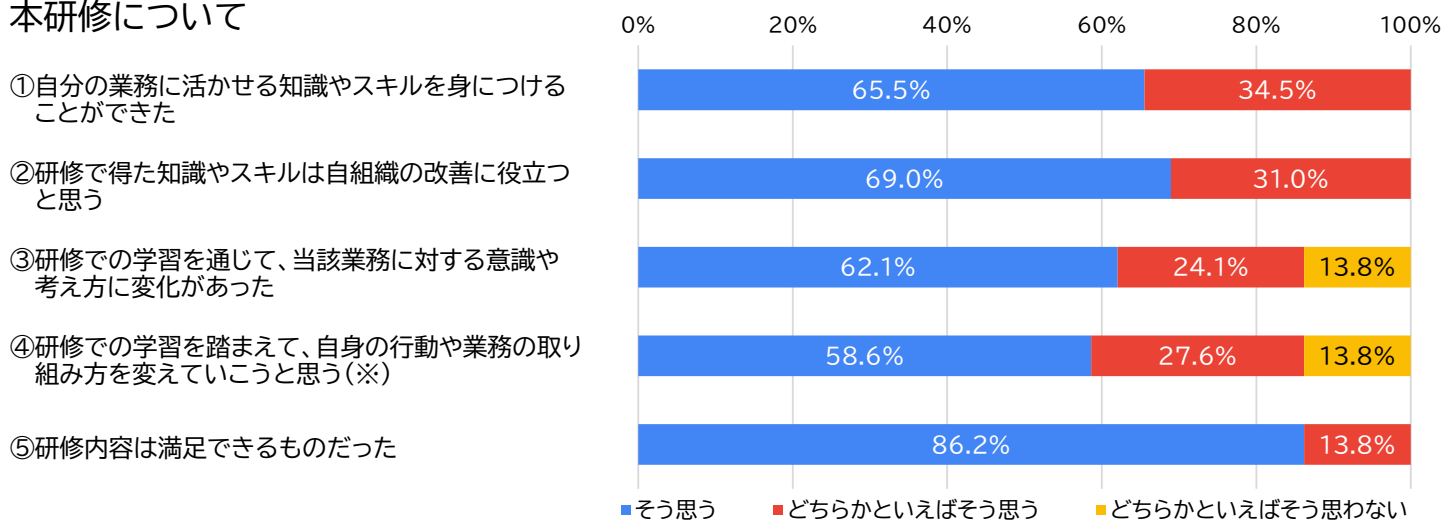
【講師派遣大学(愛媛大学)からの質問】

(1)本研修について

単位:名

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①自分の業務に活かせる知識やスキルを身につけることができた	19	10	0	0
②研修で得た知識やスキルは自組織の改善に役立つと思う	20	9	0	0
③研修での学習を通じて、当該業務に対する意識や考え方に変化があった	18	7	4	0
④研修での学習を踏まえて、自身の行動や業務の取り組み方を変えていこうと思う(※)	17	8	4	0
⑤研修内容は満足できるものだった	25	4	0	0

本研修について



(2)④の設問において、どのように行動を変えていこうと考えているか

・従来の「履修相談」では解決法を伝えることを目的としていた。「アドバイジング」を意識し、学生の主体的選択を促せるよう、まず「何を目的とした相談か」を聞き取るように留意していきたい。(他1件)
・学生との面談を経験だけでこなしている所もあったので、本日知り得た知識も活用して取り組みたい。
・こちらがゴールを提示するのではなく、学生の背中を押してあげる指導を心掛けたいと思うようになった。
・学生からの言葉をしっかり聞いて、アプローチ方法のレパートリーを増やしたい。学内システムが豊富になってきたが、自分自身も学生目線で学内の情報に敏感になり、相談があった際には上手に活用できるようなサポートと真摯に対応することを忘れずに日々の業務を行いたいと改めて思った。
・学生対応をどのようにすれば学生にとって有意義なものになるかを基本から学べたので、これまでの自分の経験を基にした学生対応をよりブラッシュアップした対応に変えていこうと思った。
・最終目標は眼前の職務遂行を通じて「Student Success」を実現することだと思う。
・個人レベルでの個別対応から、組織的な取り組みへと位置付ける必要性を痛感した。自学でのアドバイジングの制度改善に活かしたい。
・前々から個別対応の限界を提言してきたが、まさにこの度は、組織対応という話もあり勇気づけられた。ニーズの把握と業務整理を行い、学生を取り巻くすべての組織で連携体制が構築できるように連携部署に働きかけを行いたい。
・個別支援の連携から組織化の重要性について、改めて再認識できた。
・今できる他部署、多職種との連携を、都度「目的を共有」して協力することを粘り強く続けることが大切なのだろうと考えている。
・アカデミック・アドバイジングの部署だけを見るのではなく、学内の他の部署との連携をもっと意識していこうと思った。
・今後学内でSD研修を行う場合には、教務や研究支援系の職員とうまく組織的に連携していきたいというメッセージ性を添えたい。
・これまで重要性は感じつつも、取り組みのための具体的な働きかけが組織内でできていなかったが、他大学での検討状況等を積極的に共有し、体制の整備を働きかけていこうと考えている。
・自組織への落とし込みを検討したい。
・各大学の事情により体制を整備するには大変な点もあるが、学修支援の方針や現状を点検し、支援体制・方法などをどのように改善・整備できるか考えていきたい。
・愛媛大学のような制度等を確立することは難しいが、既にあるアドバイザー制度等の取組みに、もう少しアカデミックアドバイジングの要素を取り入れたり、サポート体制について教職員の共通認識を持つことならできないのではないかと考えている。
・アカデミック・アドバイジングの啓発を実施していきたい。
・アカデミック・アドバイジングの体制を全学で整備することになった場合、すぐに動けるようになったと思う。
・各種データ(出席、成績、相談履歴等)を可視化・分析することで、支援を必要とする学生の早期発見や、根拠に基づく支援施策を検討していきたい。
・取り組んでいることの目的が達成できずに悩んでいたが、IRデータなどのエビデンスを活用した取り組みに変えていきたい。
・本学が取り組む際に、グッドプラクティス事例を参考にさせていただきたい。